

第10回 逗子の未来協議会 グループワークまとめ

<地域の活動をするうえで大事なこと>

■地域との関わり度チェック結果が0～4点の人のグループ

【1班】

- ・逗子ならではの問題なのでは
高齢者が多い
- ◎個人の負担を減らすことが長く自治会活動ができるコツ
 - ・住民協は必要なの？
 - ・住民協の立ち位置
 - ・高齢者と子どもの交流は今無い状況
 - ・役所は金もない、人もいない、地域で協力してもらうしかない
- ◎挨拶ができる地域 → お互い様につながる → 情報の共有化(安否確認につながる)
 - ・役をもらっても、地域の皆さんの助けを受けて役をこなす
 - ・今は過渡期、情報のとらえ方が違う
 - ・町内会は必要なのか？
 - 必要である理由：生活上さまざまな問題が発生する
市にも問題を話す地域のことを知っているのは自治会
 - ・町内会はツールの一つ
 - ・年齢によって町内会の考え方は違ってくる
 - ・何か話し合いが必要な時に、町内会があれば良いのではないか
 - ・組織的になりすぎている
 - ・業務的な仕事と役職で行う仕事がある

【2班】

- ・最低限：思い、ごみステーションの掃除、挨拶(犬の散歩、街中だと分からないかも)
- ・趣味：地域

{	関係ない
}	関係ある
- ・ごみステーション：持ち回り、身体動く中で
- ◇オレオレ詐欺、空き家多い、どろぼう、住居形態多様
- 子、親、高齢者、若者 バランス大切：今の逗子で大転換は難しい。現在の状況でできることは？
 - ・若い人、実家に戻らない。一軒家ほしがらない

- ・逗子—自然興味ある } 高齢者：ケア必要
- 自然興味ない }
- やってくれる人がいる — 誰がやっているの？
 - ・持ち回り
 - ・できない代わりの何かする
 - 会員
 - 業者
 - ・コミュニケーションがないと、近隣知らないと成り立たない
 - けれど、知られていいこと嫌なことある
- 誰が支える？ 若い人は実際はやらない？やれる？本来は若い人の支えが理想
- やりすぎのところもある
- 人自体も減っていて、若い人だけに頼れないリアルな現実をどうするか
- 高齢者：身体的なハンデ、歩けない、買い物 → ネット使えない
- スケールを大きくして違う協力体制を築く(近所だけでなく)
- ・他の地域の工夫も見れる

■地域との関わり度チェック結果が5～10点の人のグループ

【3班】

地域（やコミュニティ）の活動をするうえで大事なことは何だろう？
 ～役所にはできない地域だからこそできるまちづくり～

グループ、つながりで活動をしている

→悪口を言ってしまう → やりづらい、入りづらい
 悪口を言わない ◎会長から言わないようにと伝える
排他的にならない → 若い人に入ってもら

・高齢化が進んでいる

周りの人のことを知る。どこにどんな人が住んでいるかを知る。

↓

どういうふうの手助けができるかわかる

← どうやって知ればよいか

情報が入ってこない

犬の散歩をしていれば散歩しながら情報が入ってきたり、

何かあった時にどこに連携すればいいのか知っていれば・・・

↓ 民生委員さんのことを知っているか、なかなか知らない

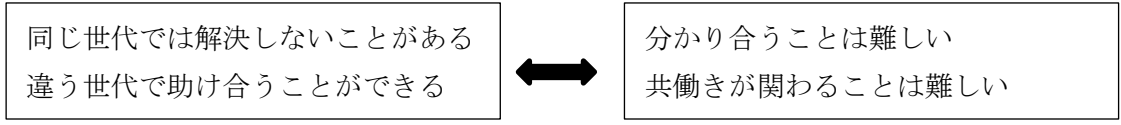
共有できればよい

- ・隣近所の声掛けは地域でしかできない
- ・行政は一律条例を決めて・・・

地域ごとの実情に応じて、というのは行政では難しい。新宿と小坪は違う

- ・地域の特性を考える。全部同じことをやるのではない
災害の対応も海の近くと山の方では変わってくる。それぞれで考えることが必要。

- ・年代で考えが異なる



年を重ねると、一人で生活することが難しくなる

若い時は、一人でも生活することはできる

【4班】

地域の活動をするうえで大事なことは？

役所にはできない“地域”だからこそできるまちづくり

- ・「住んでいる」ということ。持続するためには楽しくなければいけない
平等な機会が与えられるべき → 共感できる人間関係をつくる
- ・無理をしないこと
- ・役職、肩書きを背負わない、平等に運営する
- ・共通の趣味を持つ
- ・安心に住める地域であるべき、隣近所をよく知る
→みんなが知り合っている、困っている人を支えられる
- ・安心は結果 ← 活動する
- ・まずは顔見知りになるということ → 災害時に生きる

↑

挨拶が大切

- ・回覧板を持っていくときに会話をする
- ・雪かきの時は近所で助け合った
- ・まず「知り合いになれる場所」が必要
- ・自治会の中で共通の趣味でグループをつくるのも一案

- ・ 班長を一人ではなくグループにする → 負担を減らす
- ・ SNS、ネットなど たまに来てくれる人を感謝する。ありがとうと言う。
時間がない人にも対応できる仕組み

【5班】

地域の活動をするうえで大事なことは？

- ・ 高齢化：地域の安心・安全ニーズが高まっている
- ・ 地域と個人の生活の関わり方：機能としての地域？（ごみ回収等）
- ・ 地域だからできること：近隣との人付き合い → 地域活動への拡がりに
- ・ 高齢化：地域活動への参画への抵抗感（若年層）
（長老グループの排他的な雰囲気）
- ・ 高齢化：生活に支障がある → 地域活動に参加したくとも限界がある場合がある
（体が動かない）
一軒家暮らしに不安
（行政としての施策に限界あり ⇒ 地域で解決すべきか）
- ・ 地域活動に何があるか知らないものもある
- ・ ごみ回収：税金による行政サービス ⇒ 不足分充実化のため地域でサポート
- ・ 逗子（4年前から移住、現役） → 安心安全の問題は特に感じない。
向こう三軒両隣の付き合いあり。

まとめ

- ◇ 「自治活動はあるが」一般市民には活動内容を知らない（3団体あるが・・・）
- ◇ 「高齢化」：行政サービス負荷増 ⇒ 地域での自主的な活動でサポートすべき。
Ex) ごみ回収
 - ①良いアイデアが出る
ベンチマーク
活動事例研究 葉桜の自主的行政サポート
（ボランティア）
 - ②サポート、橋渡し
高齢者A：体が動かない
高齢者B：リタイア間もない（元気）
現役： 土日中心の活動

【6班】

地域の活動をするうえで大事なことは何？

地域だから

- ・ 楽しむことが一番! 原動力となる ⇒ 楽しむだけでいいのか？
- ・ いろいろな団体への参加 = 自らの意思
地域 = 必然的なところある、一歩踏み出すモチベーションどうもっていくか
- ・ お祭りなど参加しやすいイベント
- ・ 住んでいる地域で温度差 (ex:久木8丁目 活気盛ん) 地形も関係？
高齢者多い、買い物大変 ⇒ 無料バス運行してもらっている
清寿苑と1年交渉した

★原動力となったのは、リーダー リーダーシップをもっている人が必要
役員の奉仕度、貢献度が高い

★成功事例の共有も大事

- ・ 働く年齢が変わってきた・・・60 → 65～70 まで 自治会の活動を維持するのが難しくなってきた。衣食住に絞ったまちづくり ピンポイント
防犯・防災も大事だけど・・・医療・介護、全て地域でできる？

★30代、子育て・共働き世代と70代高齢者のみでは、ニーズが違う 個人差があるので
→ (自分たちの生活で精いっぱい) [家庭別・世代別でグループ分け
役割分担するのも面白いのでは
他人事 ⇒自分事に変える工夫

- ・ いろいろな支援制度が充実してきている
⇒ ex:子育て = 学童に預けられる。地域の必要性薄まっている
- ・ 個人主義
- ・ 必然性ではなく自主性でつながれる仕組みを生かす
それをきっかけにコミュニティを広げていく
- ・ サークルが地域にあるところも、広報なども自分たちでやっている
⇒ 地域差、特色があるので市全体で均一化は図れない
- ・ 災害に備えて活動している自治会、自治会間での情報交換も必要
- ・ 地域にあるコミュニティセンター、自治会館を生かした活動

■地域との関わり度チェック結果が 11 点以上の人のグループ

【7 班】

- ・地域は個人とパブリックの両方が関わる。個人情報は大切だが、ある程度必要。地域とは何か、わかるように
- ・役所ができないことというか、地域の拠点、まちづくりは人づくり、役割分担などは役所がやるべきではないか。大谷戸会館などのような拠点が乏しいから役所がつくるべきだ。その前提で市民・行政の分担を考えるべきだ。
- ・コミュニティセンターはどのくらいの広さを考えるのか。あまり活用されていないのが実態だ。使いやすいようにつくるべきだ。
- ・沼間小学校区では東逗子駅前のぼうぼうの草を刈ることを JR などにも話して数日間でやったが、トイレは市の管轄だ。それなのにひどく汚れている。そのような解決が必要だ。公園などの草刈りもしているが、行政と連絡をよく諮ることが大切だ。
- ・行政とよく話し合う機会は必要だ。協働で働かされる。役所がやるべきことはよくやってほしい。
- ・ハチドリの一滴 — ハチドリができることを懸命にやっている。
- ・自分のできることしかできない。
- ・活動拠点、人材育成、資金づくりが大事だ。
女性には先に行動してくれてありがたい。責任をもってやってくれる人に頼みたい。
- ・地域の概念をはっきりさせたい。年齢と体力に関わる。老いて食べる量が減って眠くなるといけない。地域によっては範囲が異なる。ハイランドの人は各地から集まった人たちが、久木には地主が氏子総代などやっていて、話し合うのはたやすすくない。共通のことを見つけるため、フリートーキングを重ねる必要がある。
- ・市は小学校区などというくり方をする。その先に細分して考えるのかもしれない。その方法は1つありうる。市民は市などにどういうことをやってもらいたいのかについて、地域・テーマを考えるべきだ。
- ・自治とは何かを考え、自治会・町内会がよく運営され、市役所と良好な関係をもつようにしたい。コミュニティセンターをつくってくれるのは市だ。そこでフリートーキングなどしたい。相談にのれる人も地域にいてほしい。
- ・点数の多い人と少ない人をテーブルで分けた。しかし、悩みはよく話したほうがいい。
- ・役所は何をやってくれるのか知りたいと思ってきたが、役所は何をやったらいいかわからないだろう。市民の意見を吸い上げて実行することが市役所に求められている。
- ・地域の中に物言わぬ人がいる。サイレントキラーは良くない。
- ・みんな同じ意見・考えだと前提して話し始めてはいけない。